

令和6年度 第2回 函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和7年2月20日（木） 10時30分～12時00分								
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂								
議 題	(1) 報告事項 ① 協議会の設置および委員の委嘱について ② 令和6年度 縄文関係事業報告 ③ 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和6年度下半期） ④ 史跡大船遺跡保存活用計画 ⑤ 令和7年度 縄文関係事業計画 (2) その他								
出席委員	佐藤 安浩	副会長	竹内 正幸	委員	大宮トシ子	委員			
	山田 貴久	委員	田中 佳丈	委員	菅原 学	委員			
	三浦 信一	委員	中本 邦雄	委員					(計8名)
欠席委員	熊谷 儀一	会長	谷口 諭	委員	三浦 孝史	委員			
	佐々木考比古	委員							(計4名)
事務局	教育委員会 生涯学習部長 土生 明弘 文化財課長 木村 元子 文化財課主査 野村 祐一 文化財課主査 吉田 力 文化財課主任主事 横岡 歩 文化財課主任主事 小塚 陽介 文化財課主事 藤田 真由 南茅部支所 支所長 川口 洋 産業建設課長 加我 明夫 (計9名)								

1 開 会

(事務局)	開会
-------	----

2 挨 拶

(生涯学習部長)	開催挨拶
----------	------

3 出席者紹介

(事務局)	協議会委員および事務局紹介
-------	---------------

4 議 事

議長あいさつ

(議長)	それでは、熊谷会長が体調不良で欠席ということでございますので、代わりに私の方で進めさせていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。
------	---

(1) 報告事項

① 協議会の設置および委員の委嘱について

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料1)「函館市縄文遺跡群保存活用協議会設置要綱」 「 同 委員名簿」・「別表」説明
(議長)	新任の山田委員から一言お願いします。
(山田委員)	NPO 法人「南かやベリバイブサロン」の山田と申します。 私達の団体について、ご紹介させていただきたいと思います。 私達 NPO 法人は、南茅部地域において、この地域の持続可能な地域社会を目指すということで取り組んでいる団体でして、一昨年 2023 年 3 月に有志が集まってスタートして、昨年の 3 月に NPO 法人として設立をいたしました。 この 1 年活動してきているのですが、去年 1 年間なにをやってきたかという、縄文に関わるということと言うと、昨年の観光庁の「地方観光新発見事業」という事業がありまして、それに対して函館市の企業中心に「函館ブルーデスティネーション」という団体が立ち上がりまして、その観光庁の事業で、この南茅部でもそういう新たな観光資源はないかということで、私もそこに関わりまして、縄文をどうにか活用していけないかと。 私達の活動の中で、この南茅部地域をこれからどうやって持続させていくかということに関しては、やはり、この世界遺産である縄文遺跡、これは資源ですから、これを活用して今、人口減になっているところをなんとか増やしていく取っ掛けになるような、そこにまず関係人口を増やしていく手段としてなにか使えないかということを考えていました。 その昨年の観光庁の事業で創ったのが、南茅部に来ていただいた方に縄文を疑似体験していただくということで、竪穴式住居を作ってみて、そこに函館市内の有名なイタリアンのレストランのシェフに来ていただいて食事を楽しんでいただくというようなことをやってみたり、そういったこともやって、これから縄文に

	関しても、この南茅部地域をどうやって活かしていけるかということを取り組んで活動をしています。 以上です。よろしくお願いいたします。
(議長)	ありがとうございました。新たな委員ということですが、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと、よろしくお願いいたします。

② 令和6年度 縄文関係事業報告

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料2)「令和6年度 事業報告」説明
(議長)	ただいま事務局から令和6年度の事業報告につきまして説明がありました。さまざまな取組が行われたということが改めて知ることができたのかと思います。 質問やご意見がありましたらお願いします。 渡島フロンティア人材育成事業で、各協力校の取り組み内容や生徒の様子など気付いた点について、小学校・中学校・高校それぞれ教えてほしい。
(田中委員)	南茅部小学校の田中です。 小学校では総合的な学習の中の地域学習ということで、3年生は、函館市内の小学校全部の学校が縄文文化交流センターの見学に行っておりますが、本校でも2年生の生活科で一部、3年生は、市内全域での取組みの、その一環で行っております。 それから6年生が、今度は修学旅行で三内丸山遺跡に行くものですから、青森と南茅部との相違点ですとか共通点ですとか、そういうことをまとめながら、改めて地域の縄文遺跡について、縄文文化について学んでいくという学習を進めています。その中でこの地域の子も達が自分達の地域の遺産について色々知識を得て、それを色々なところで拡散してくれればいいなと考えております。以上です。
(菅原委員)	中学校ですが、本校では第一学年、中学1年生が縄文文化交流センターの方へ足を運び、見学や体験学習に参加しております。 また縄文文化交流センターの職員の方を学校にお招きして、全校学習会という形で、土器等を実際に持ってきていただいて、それを身近に触れるというそんな機会をもっております。いずれも総合的な学習の時間の一貫として、これらを進めております。以上です。
(三浦(信)委員)	この事業自体が、小学校では縄文文化を理解し親しむ、中学校になってからは、調べたり、他の教科との関係と結びつけながら調べて発表するという段階で、高校ではさらに発展させて、外部に発信して、さらに下の子達や地域と連携して、縄文を広めて行く人材を育成する、地域人材を育成するという事業であります。 高校自体、元々、小・中で地域学習の中で縄文というのを扱っておりますけれども、高校でも総合的な探究の時間で、地域の昆布であるとか縄文文化であるとか、あるいは地域の発展や商品開発も含めてというテーマで学習しているということです。その中では縄文文化交流センターを活用させていただいたり、講師と

	して招いたりという部分も、単発的なものにはなりますけれどもございます。 それ以外に、縄文クラブという部活動がありまして、その部活動が広く遠征して、地域の幼稚園児に縄文学習でやっていたものを輸出して、その地域でやることで、函館地域・渡島地域以外・胆振に関しても、こういう活動があるのだということで、ノウハウというのを移植していくというような形を、この事業を活用して行われたというところです。
(議長)	ありがとうございました。小学校・中学校・高校と繋がっていることは、すごく良いことだと思いますので、引き続きご協力いただければと思います。 南茅部支所では、地域おこし協力隊の方が各学校にゲームを寄贈したとのことだが、このゲームを使った取り組みや生徒がどのように思っているのかわかりましたら、教えてください。
(三浦 (信) 委員)	高校の方で、贈呈式の後に縄文ゲームを全体でやったのですが、意外と楽しめるということと、後は意外と出ているものが、そうだったんだ、こういうのも関係あるんだ、というところで遊びながら学べるということと、大人も入ったりしながら、そこで会話ができるというところでありました。 その後の利用としては、共有フロアに色々なゲームとか物を置いて交流できるようにしてあり、そこにもいただいた物を置いて、たまにはありますけれども、使えるような状態にはしているというところです。 逆にいえば、そのゲームが広がっていくとしたら、ゲームのルールを説明できるくらい、中高生くらいであればできたりだとか、もうちょっと発展させたりして結構使えるかなという感じです。
(菅原委員)	中学では、贈呈式の後に1年生の教室に入っていて、実際に縄文ゲームをやっていて、1時間ほど楽しみました。 その後は、翌日以降に2年生と3年生が昼休み等の時間を利用してということになるのですが、同じように縄文ゲームを楽しみました。ルール等、大変工夫されておりまして、生徒は喜んで遊びながら学習をすることができました。以上です。
(田中委員)	小学校です。資料の写真に出ているのは小学3年生の教室で、贈呈式の後、3年生に1時間、この縄文ゲームを遊んでもらったということになりますが、小学校では逆にルールがちょっと難しく、簡単にして、わかりやすくしてやるというところで取り組んでおります。 それから、3年生の子ども達が使った後、学校に4セットいただきましたので、各学級に回して体験してみてという状況です。 中々休み時間等では、子ども達だけではできないので、先生方が仕掛けて、学習時間1時間を縄文の学習ということで取り組んでいるというところでございます。 以上です。
(議長)	ありがとうございました。非常に好評ということがわかりました。

③ 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和6年度下半期）

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 令和6年度下半期に遺産影響評価を実施していない旨、説明。 年度末に実施をしたら、次回の会議で報告する旨、説明。
(議長)	それでは下半期が終わったら、報告をよろしくお願ひしたい。

④ 史跡大船遺跡保存活用計画

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料3)「史跡大船遺跡保存活用計画の概要」説明
(各委員)	(質問・意見など無し)

⑤ 令和7年度 事業計画

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料4)「令和7年度 事業計画」説明
(議長)	私ども一般財団法人道南歴史文化振興財団は縄文文化交流センターの指定管理をしていますが、今年は土偶発見50年ということで、様々な事業を財団の方でも考えております。企画展や講演会などを進めておりますので、決まりましたご案内いたしますがぜひご協力をよろしくお願ひしたい。 また要望ですが、「5.郷土学習推進事業「縄文に触れる学習」」の小学3年生のバス借り上げ料について、今年度も予算化されて、子どもたちは見学を楽しんで学んでいるのを見ていましたので、ぜひ継続をお願ひしたい。 皆様から何かございますか。 山田委員、意見などございますか。
(山田委員)	「7.南茅部地域世界遺産活用支援事業費」について、地域おこし協力隊を活用した支援事業とは、具体的にどこにどのようなふうにするということは決まっているのでしょうか。
(産業建設課長)	具体的に決まっているものはないです。一応、地域おこし協力隊の中で、地域の色々課題を見つけて、その中で地域おこしに関わるものを自分達で見つけて、それを活動していくというのがメインになっております。 その中で、縄文文化を活用した地域おこしの一環で、今回の縄文記憶ゲームというものを広めさせていただいたりですとか、もう一人の隊員の方は、道の駅のメニューの商品企画に協力しておりますして、昨年は「ご地層パフェ」といってパフェを地層に見立てて、地層でそれぞれ中身が変わっていくようなというパフェをですね、昨年、道の駅の方で商品開発しているのですけれども、その参画。 それから今、丁度やっておりますけれども「カックー団子」と言って、冬の限定商品ということで、お汁粉です。そちらの方もうちの隊員も入って商品企画ということで、今、限定でやっておりますので、道の駅に寄って、ぜひご賞味いただければと思います。黒い汁粉ではなくて、ちょっと変わった、映えるような白いお汁粉です。

	そういった中で色々と考えながらやっているということで、具体的に来年度こういうことをやるというようなものは、今のところ決めてはいないです。以上です。
(山田委員)	要は、これは協力隊の人件費でいいのですか。
(産業建設課長)	人件費と活動費。活動に係る色々なものに係る経費ですね。
(山田委員)	わかりました。
(議長)	ちょっと付け足しになりますけれども、地域おこし協力隊については、私どもの道の駅ですとか縄文文化交流センターの業務につきまして色々とお手伝いをいただいているところでして、来年は先程言いましたように、土偶 50 年ということで、ミュージアムグッズにつきましても、それに合わせまして何かを作りたいなというふうにも計画しておりまして、それも協力いただいいていこうかなというふうに思っております。 いずれに致しましても、ぜひ地域おこし協力隊には協力していただきたいと思います。よろしく願いいたします。 山田委員よろしいでしょうか。
(山田委員)	はい。

(2) その他

(事務局)	事務局から下記 2 点を説明。 1) 委員の委嘱 2) 来年度の開催時期
(議長) (各委員) (議長)	ただいまの説明について、ご質問等ありますか。 (特になし) それでは、最後、通しでご質問等ありますか。
(山田委員)	垣ノ島遺跡についてお聞きしたいのですが。先月 1 月 19 日にこの場所で、「南茅部の魅力再発見」という地域フォーラムを開催しまして、その時に縄文関係で阿部千春さんにお越しいただいて縄文の話をいただいたり、フードライターの方に来ていただいて世界で真昆布が注目されているという話をうかがったり、特製スープの試飲等をやりました。 それで最後に意見交換の際に参加者の方から、垣ノ島遺跡で今後、遺跡の発掘調査はどういうふうになっているのかという質問があったのですが、そのスケジュール的なことはどうなっているか。その時、阿部さんの方は、教育委員会でないとお答えできないという話だったと思うのですが、そのお話はできるでしょうか。
(文化財課長)	はい。垣ノ島遺跡の発掘調査についてというお尋ねですが、今、垣ノ島は史跡指定になっておりまして、発掘調査というのは遺跡を壊すことにもなってしまい、記録は取れるのですが、掘り返してしまうことなので、中々、史跡の中で発掘調査をするということはハードルが高いということがございます。 また今後、例えば整備に向けた動きなどの中で、そういった発掘調査をすることは出てくるかと思うのですが、今のところ予定

	している中では、発掘調査の予定はないということになってございます。以上です。
(大宮委員)	毎年、小学校3年生の生徒さんに遺跡見学していただいているのですけれども、大船遺跡の場合、駐車場が新しくできて、遺跡に到着するのに片道5分くらいかかります。それで見学の時間がすごく短いのですよ。基本的には30分くらいあれば一通り案内できるのですが、その時によって到着が遅くなったり、トイレの時間も結構かかります。大船遺跡はトイレが3か所で、男子トイレが1か所で男女が2か所なので、並んで使用していただくことになるので、基本的には30分以上かかってくると思うのですが、説明の時間がすごく短くて、本当にきちんとした案内というのができていないです。 それなので、もうちょっと時間を長く設定できないのかというのをいつも思っています。こういうのは、学校側に要請するものなのか、教育委員会の方から伝えでもらえるものなのか、そこがちょっと気になっている部分ですね。
(文化財課長)	どうもありがとうございます。 実は郷土学習の事業で、学校にもアンケートをとっているということでご報告させていただいたのですけれども、やはりその中に先生方の方からも、お昼休憩を途中で挟んだら、もうちょっと長く時間が取れるのだけだなという、ちょっと残念がるようなお声もいただいております。 どうしても学校の必須のカリキュラムの中でということなので、多分、先生方もご苦労して時間を確保していただいていると思うのですが、そういった遺跡を説明する側で、ある程度コンパクトなガイドプランを考えていただくということもひとつの方策だと思いますし、ただ、じっくり説明するためにはこのくらいの時間が標準として必要ですということも合わせてですね、学校側にも周知を図っていきたいと考えております。以上です。
(大宮委員)	ありがとうございます。
(議長)	確かに時間が短いとお声をいただくので、ぜひよろしくお願いします。 他になにかございますか。
(山田委員)	今日は校長先生方もいらっしゃるので、ちょっとお聞きしたいのは、この南茅部の遺跡から出てきた土偶「中空土偶」は国宝でもあるということで、その評価はですね、芸術性ということを言われてなっている訳ですね。大宮さん、そうですね。 ということで、学校の中で小学校から高校に至るまで、生徒さん達が縄文の授業を受けた場合に、土偶や土器等のアート・芸術性という部分では、そういう指導はされているのでしょうか。
(田中委員)	芸術的な部分についてということは、特に取り立てはないのですが、一応、小学6年生が三内丸山遺跡に見学に行った時に「土偶作り体験」で自分で土をこねて土偶を作って、それを焼いてもらって送ってもらうというような活動のみですね。芸術的という

	部分で考えると、それのみやっております。
(菅原委員)	中学校です。芸術的だということについては、主に中学校であれば美術の教科ということになるのですが、特に土偶ということに特化した指導はしておりません。以上です。
(三浦委員)	高校の場合はほぼ地元の生徒でして、元々こういうのがあるというのを小・中で学んできている。ただ、その中で良さというものがわかるのは、自分の場所では中々良さがわからない。外に出て、例えば見学旅行で青森・岩手・京都とか行きましたという中で違いがあるな、違っていて意外と他から評価されて観光客も来ているなとか、そういうのを聞いて、相対的というか、本当は自分でこれはいいものだなと思えばいいのしょうけれども、他と比べる中でということで、比較という形でやっていく訳です。その文化的・歴史的な、他の教科、歴史とかをやっている中で、再発見、高校卒業した後の方がもっと再発見かもしれないですけども、なんとなくあるなから意外と評価・評判良くないかくらいの段階とか、もっと言えば卒業した後で戻ってくるような子達が実はここいけるじゃないかというような再発見の部分は結構あるということです。 良い物良い物と刷り込むよりも、比べる中で良さがわかるというか、ずっと続いているんだというところが、比べてみたら、やっぱりわかるというのが多いと思います。 そういう意味では、地域のただ縄文以外の地域の産業であるとか、同じ函館市ですけども、西部地区とかの様子とかと比べたりしている中で、違いというところで、同じ事を話していますけれども。
(山田委員)	高校の段階で、比較的なことは実際にはやっていないということですか。
(三浦委員)	それぞれがテーマを見つけて、やっていくという形になりますね、高校段階では。課題とかをどうするかというのは、与えられたものではなくて、自分達で周辺の部分を見つけて深掘りして、発信していくという教育の段階になっているのだと思います。
(山田委員)	わかりました。ひとつ思ったのですけれども、プロモーション活動においても、そもそも芸術的な強みというのが活かされていないと感じます。色々なところからプロモーションで展示会がありますといっても、ただ中空土偶レプリカを置いておくと見せ方とあると思います。こういう見せ方をすれば、すごいインパクトがあつてというような、そういった強みを生かした展開というのがちょっと弱いのではないかなという気がするのですけれども、それは、どうでしょうか。
(文化財課長)	大変、貴重な意見をありがとうございます。 中空土偶が、画像や写真の利用について、色々メディアから、お問い合わせが来たりするのですけれども、例えば、NHKの「びじゅチューン！」というアートを取り扱う番組でも、そういった中空土偶をテーマにしたコンテンツを作成したりということが今

	までもございます。 私達も中空土偶（カックウ）を紹介する時に、どうしても歴史・考古という文脈の中で紹介することが多かったと思うのですが、そういったアートの視点で魅力を伝えていくことも非常に面白い視点だなと、あの皆さんに響くのかなというふうにも考えますので、ちょっとその辺、検討していきたいというふうに思います。 ありがとうございます。
--	--

5 閉 会

(事務局)	閉会
-------	----

(了)